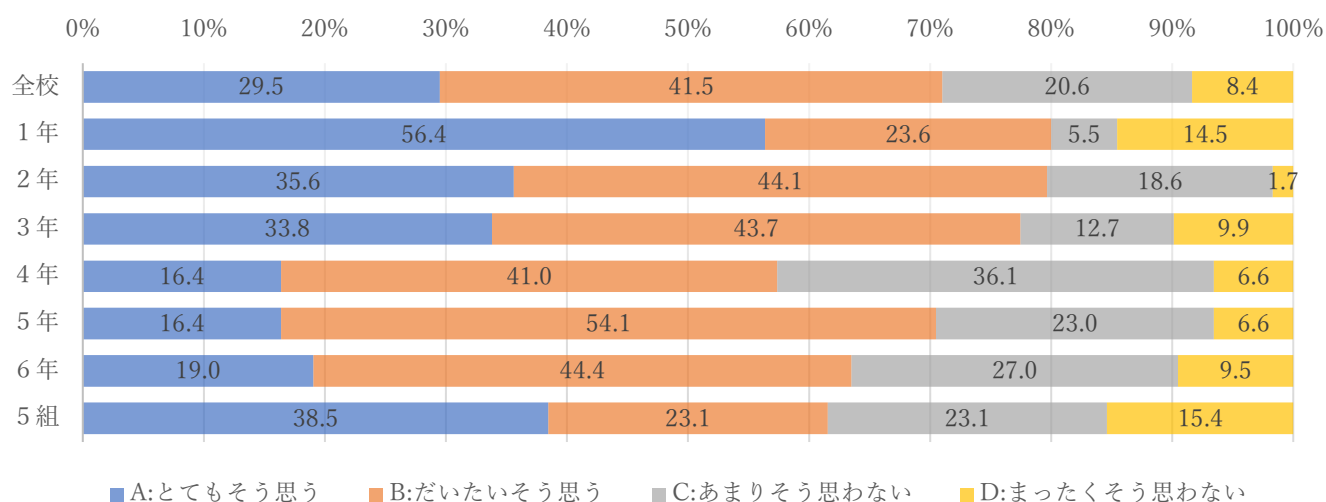
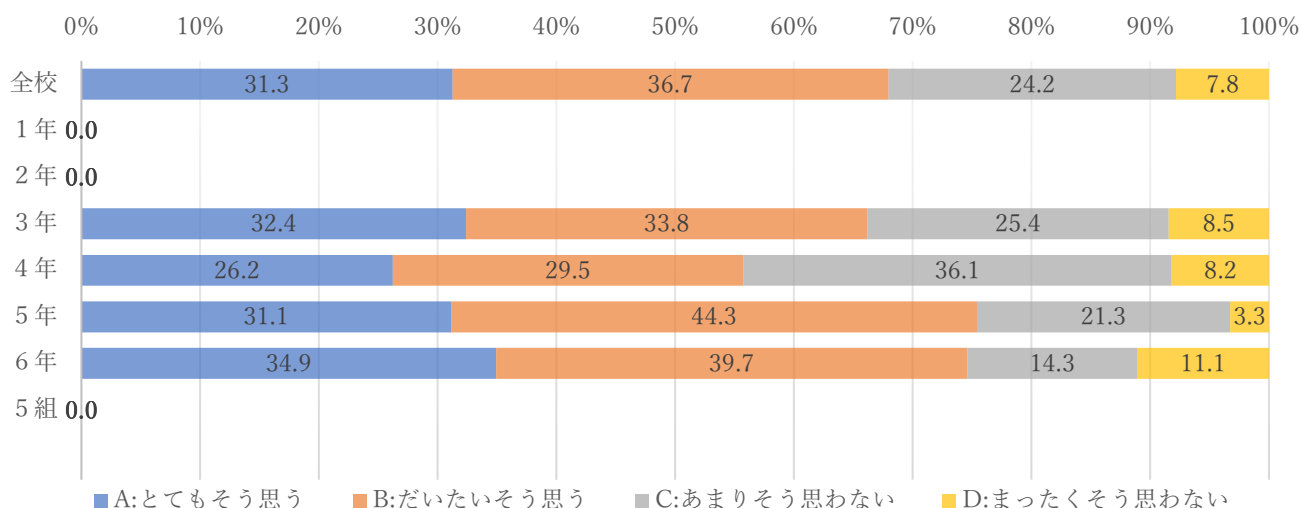


令和4年度 学校評価（児童）集計結果

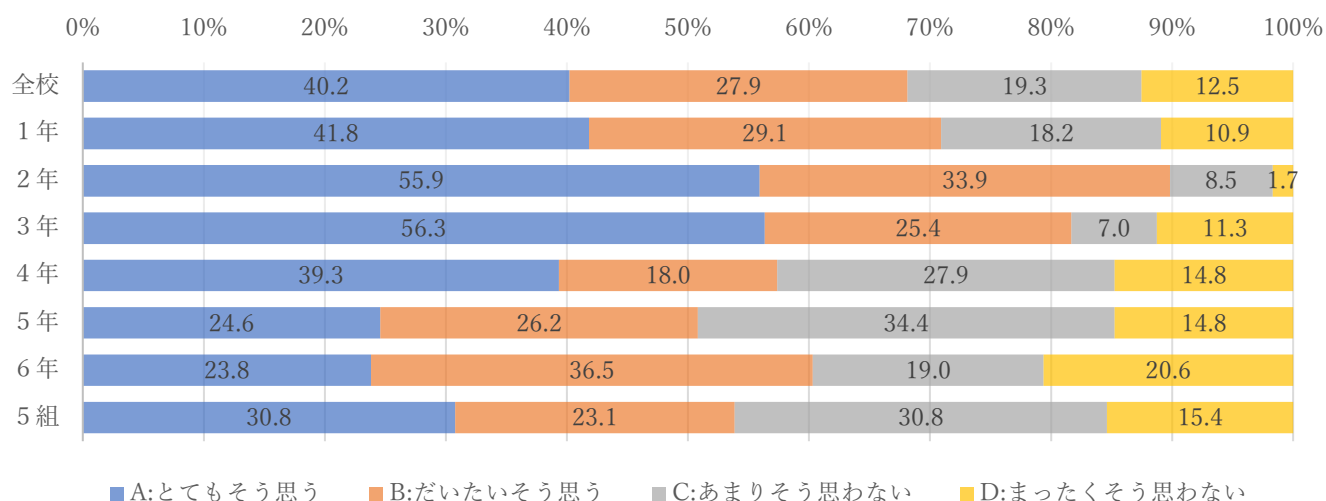
1 国語の学習は好き/得意だ



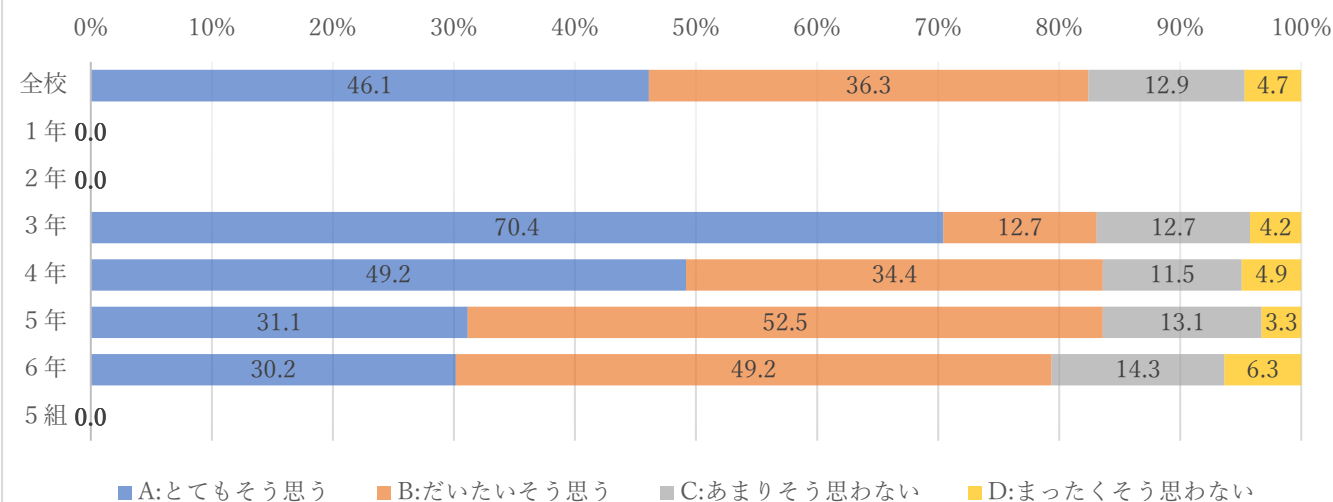
2 社会の学習は好き/得意だ



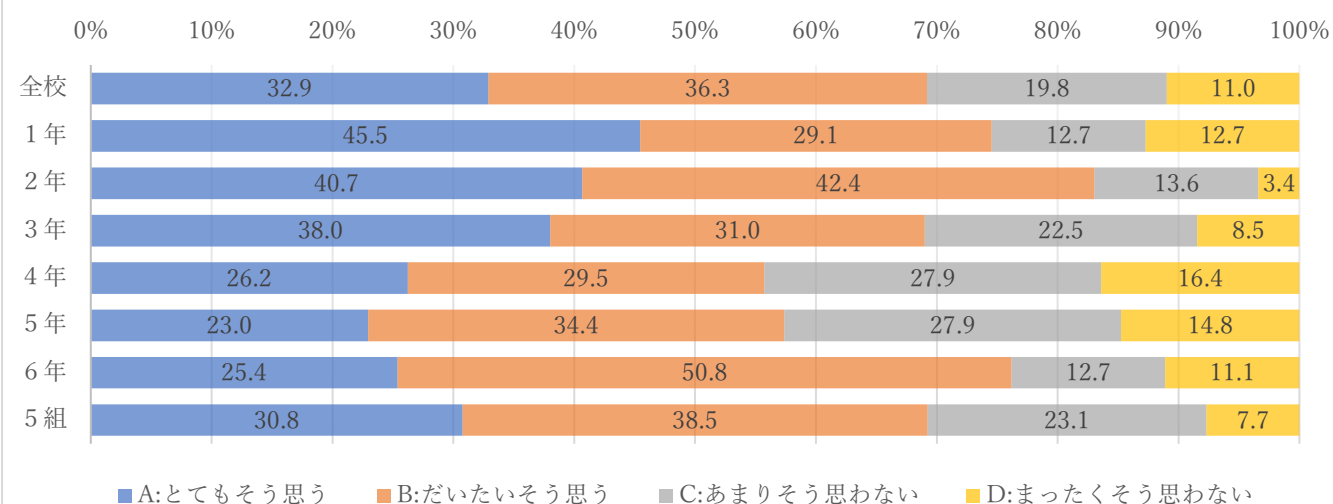
3 算数の学習は好き/得意だ



4 理科の学習は好き/得意だ

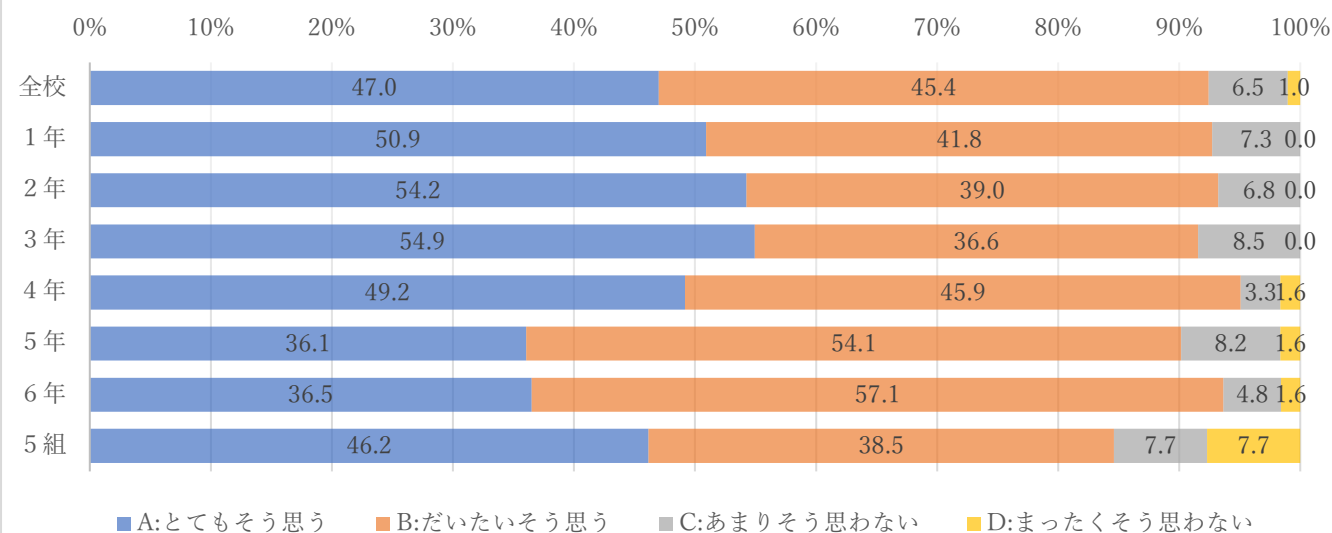


5 G・Sの学習は好き/得意だ



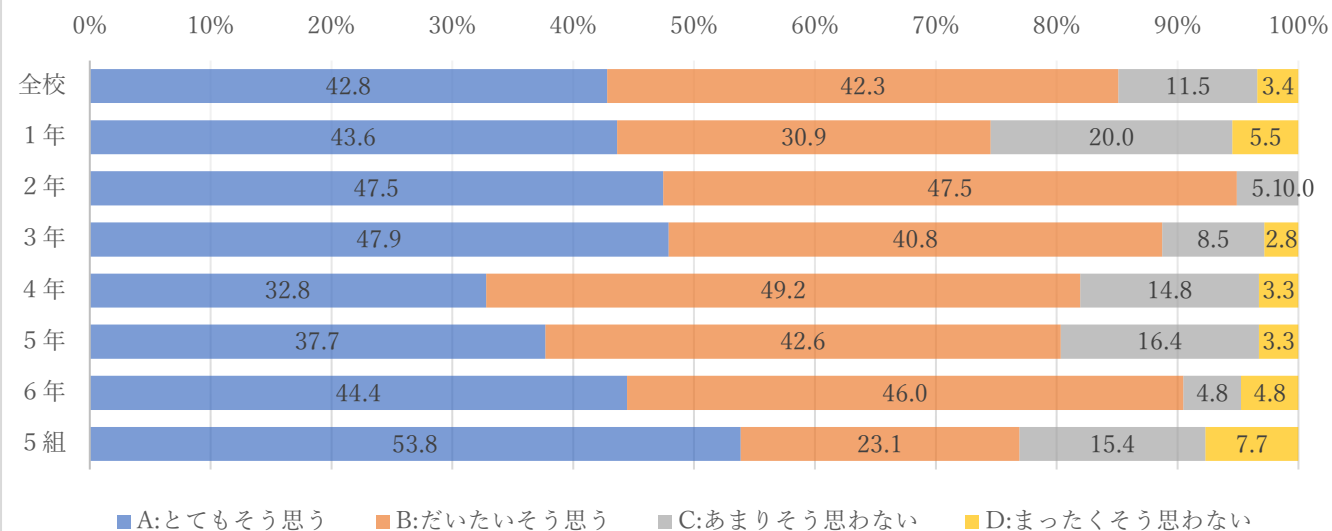
当然、教科によつての差はあるが、どの学年も概ね「好き/得意」と回答している。ただし、「とてもそう思う」に関しては、高学年ほど低い数値となる傾向がある。また、どの学年も10～20%近くの児童が「まったく思わない」と回答している傾向もみられる。ただし、理科に関しては、肯定的回答が他教科と比較しても高い結果となっている。実験等、体験的な学習があることが要因としても考えられる。学校課題で取り組んでいく「主体的・対話的で深い学びの実践」における授業改善を行っていく中で、苦手意識の高い児童に対する手立ても検討していく必要はある。

6 学校やクラスのきまりを守って、生活することができるようになってきた。



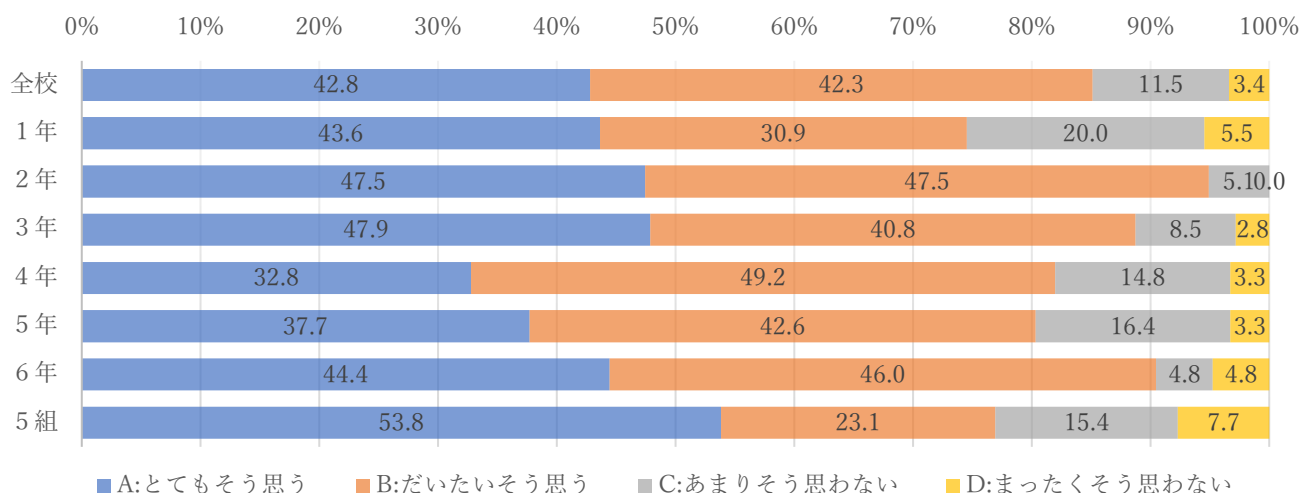
肯定的回答がどの学年も90%前後となっていることから、児童はルールを守った学校生活を送れていると感じていることがわかる。今後も、学年や学級の事態に合った指導の継続やルールを守ることの意義を指導していくことが重要である。児童自身にも何故ルールを守った生活が大切なのかを自分事として考える時間を設定する等、自主的にルールを守れるように指導していく。

7 友達や先生、地域の方に進んであいさつすることができるようになってきた。



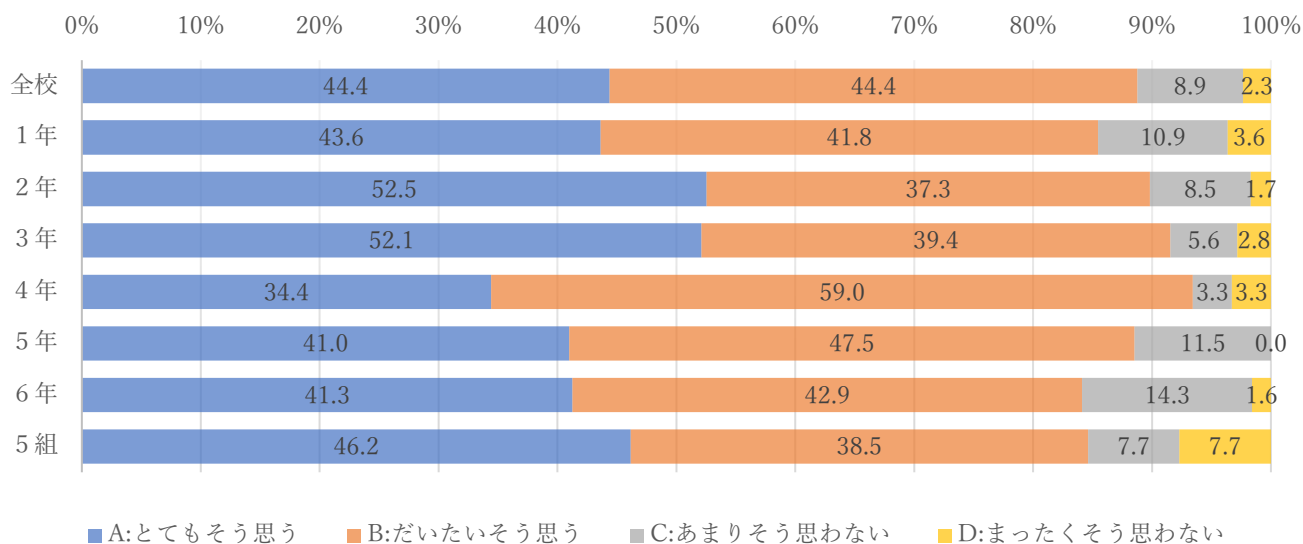
学年によって差はあるものの、全校だと85%と高い結果ではある。しかし、昨年度と比較すると6%減の結果となっている。また、否定的回答が学年も10~20%近くあることから、楽観視できる結果ではない。個の特性にも関わる部分ではあるため難しい部分はあるが、あいさつすることを意義付けての指導は今後も継続していかなければならない。

8 係や委員会等の仕事がある時以外は、休み時間に校庭に出て元気に遊んだり運動したりできるようになってきた。



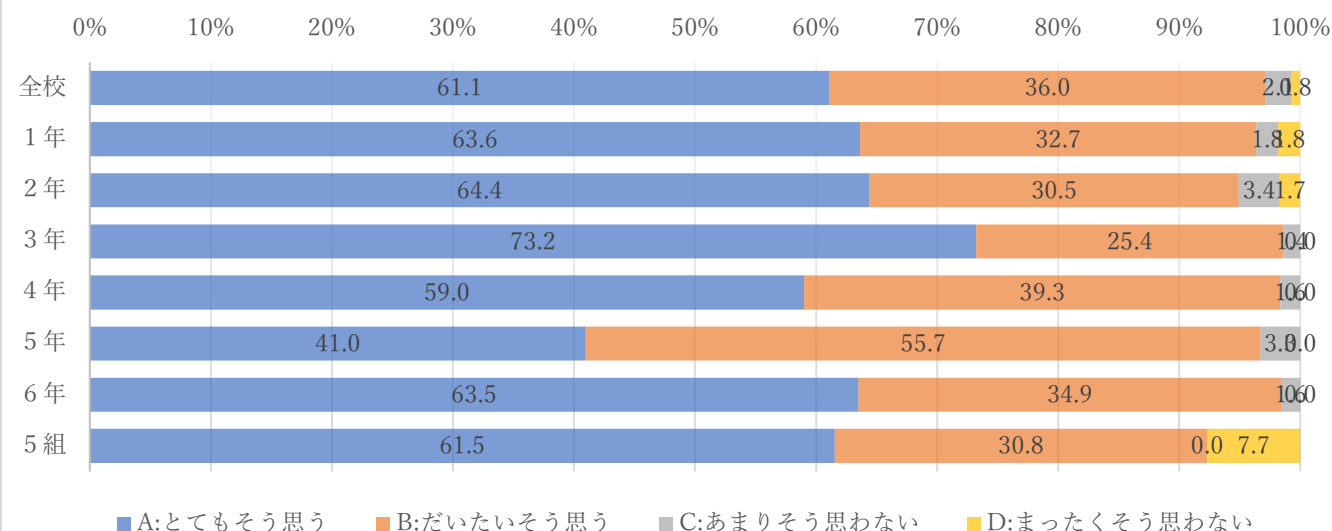
全校的にも学年的にも肯定的回答が80%前後と高い結果となっている。昨年度と比較すると若干改善している様子は窺える。各学級での声掛けや体育委員会のキャンペーン実施の効果も高いと考えられる。しかし、昨年同様タブレットが外に出ないことの原因に上がっている一面もあることから、統一したルールは作成していかなければならないとも考えられる。

9 健康を意識して生活することができるようになってきた。



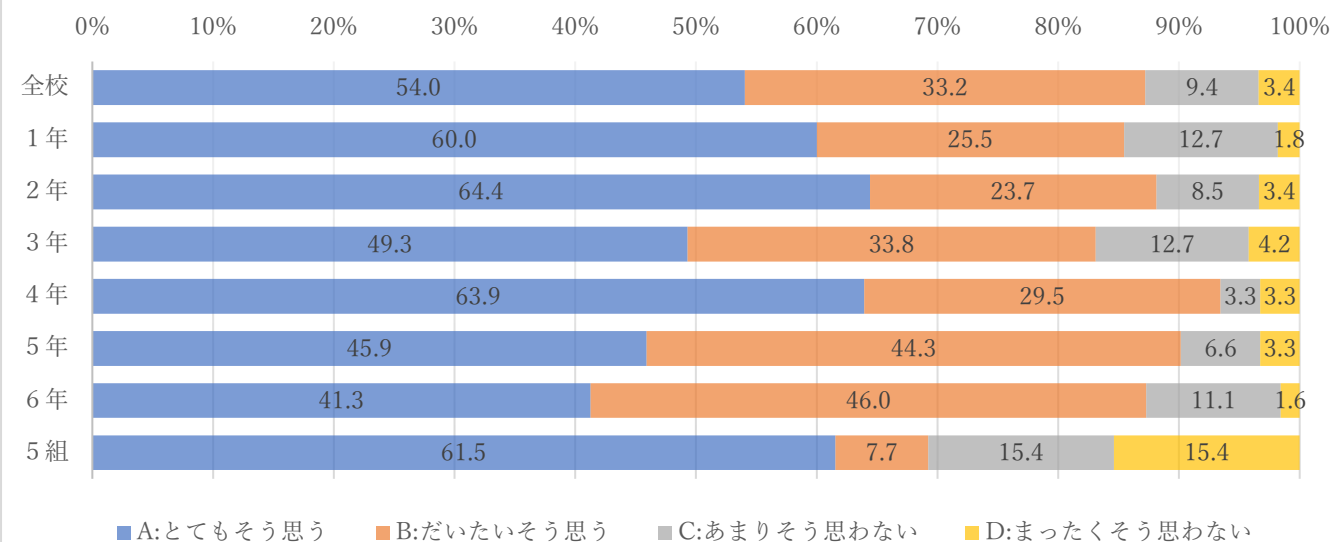
学校課題で「学校保健」の研修を進めてきたことも要因として考えられるが、全体的に90%前後の高い結果となっている。保健委員会の放送によるアナウンス等も効果的だったかもしれない。今後、新型コロナウイルス感染症に関する制限緩和等もあるが、引き続き適切な指導を行っていくことで、児童の意識向上につながると考えられる。

10 先生や友達の話をしっかり聞けるようになってきた。



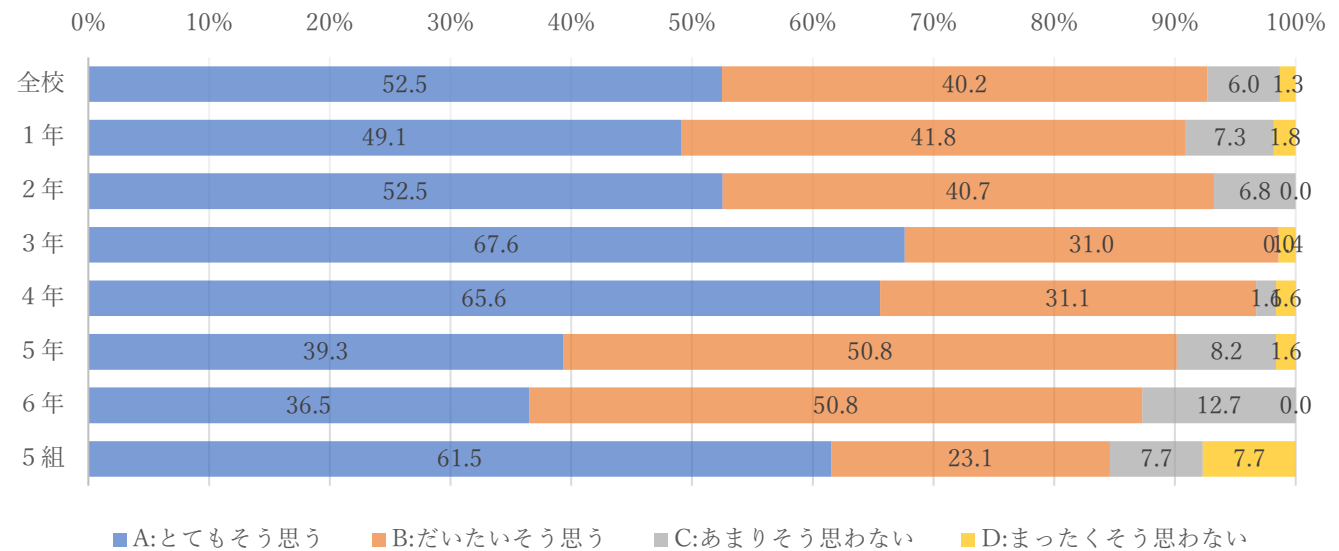
肯定的回答が90%以上と高い結果である。昨年度と比較しても同等以上の結果となっている。否定的回答においても、1割未満であることから、児童の話进行を聞こうとする意識の高まりは感じられる。今後も児童への称賛を欠かさずに、学年相応の聞き方を身に付けられるよう指導するとともに、児童の実態に合わせた話し方や指示の出し方を教員自身も工夫して実践していかなければならない。

11 学校は楽しい。



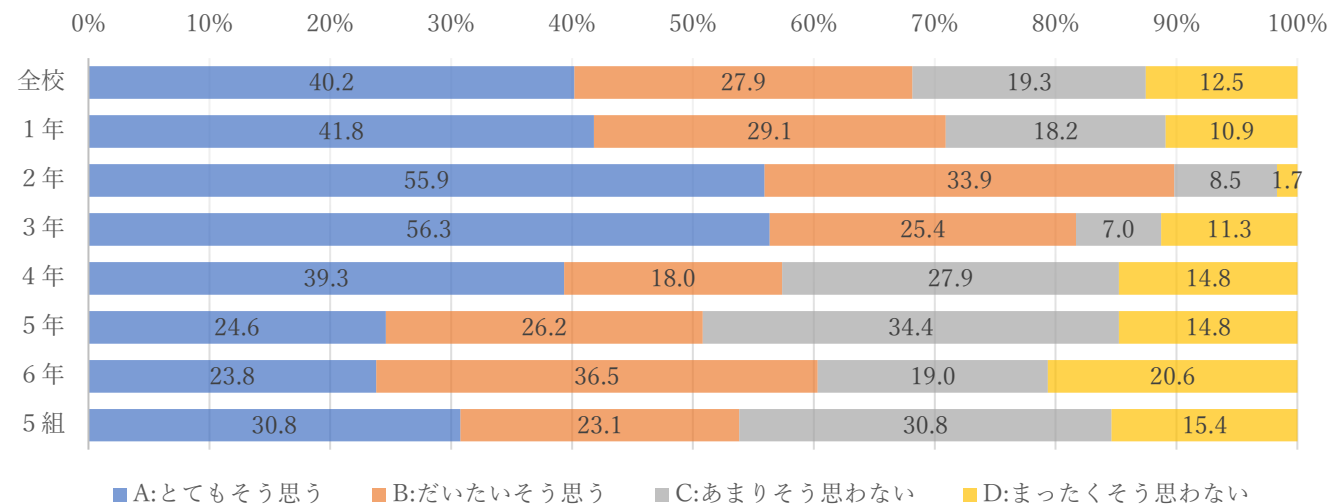
結果としては、全体的に80%前後と高い数値ではあるが、昨年度と比較すると否定的回答の割合がどの学年も若干増えている傾向がある。原因として対人関係や学習関係が考えられるが、一朝一夕で解決することは難しい問題もあることから、児童の小さな変化も見落とさずにしていくことや家庭との連携を確実にやっていくことが重要である。

12 学校の授業はわかりやすい。



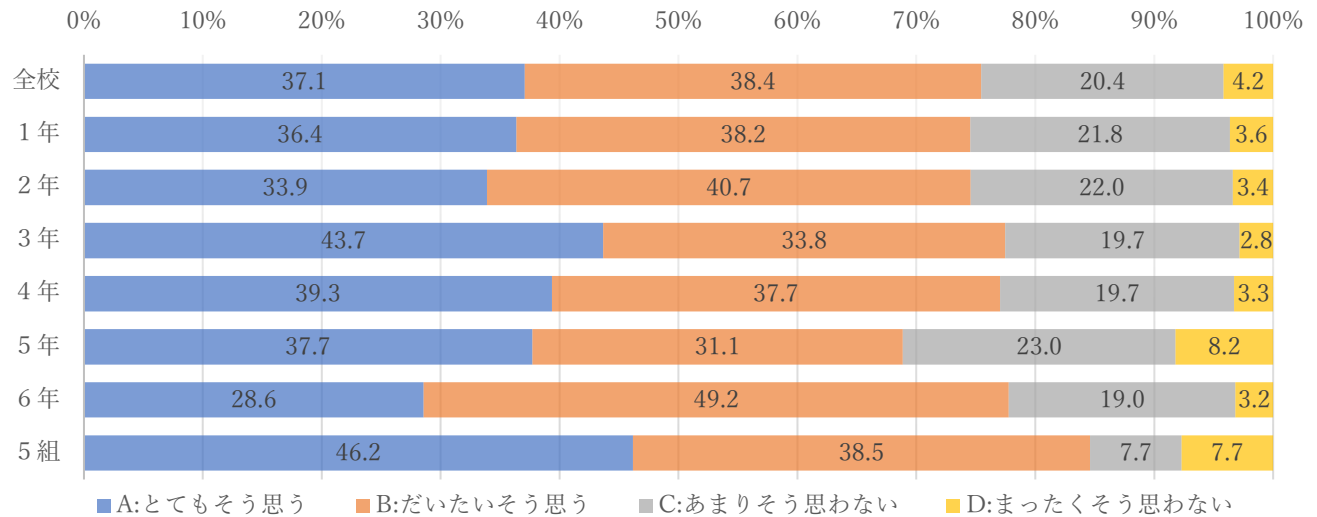
否定的回答の割合が昨年度と比較するとどの学年も高くなっている。学年が上がり学習内容が難しくなることも原因の一つであると考えられる。しかし、全体的には肯定的回答が90%前後と高い結果となっている。これは、児童の実態に合わせた授業展開を教員が実践している結果とも考えられる。今後も、引き続き児童の実態に合わせた授業展開を行うとともに、継続した授業改善をしていくことが必要である。

13 授業中など、タブレットを上手に使えるようになってきた。



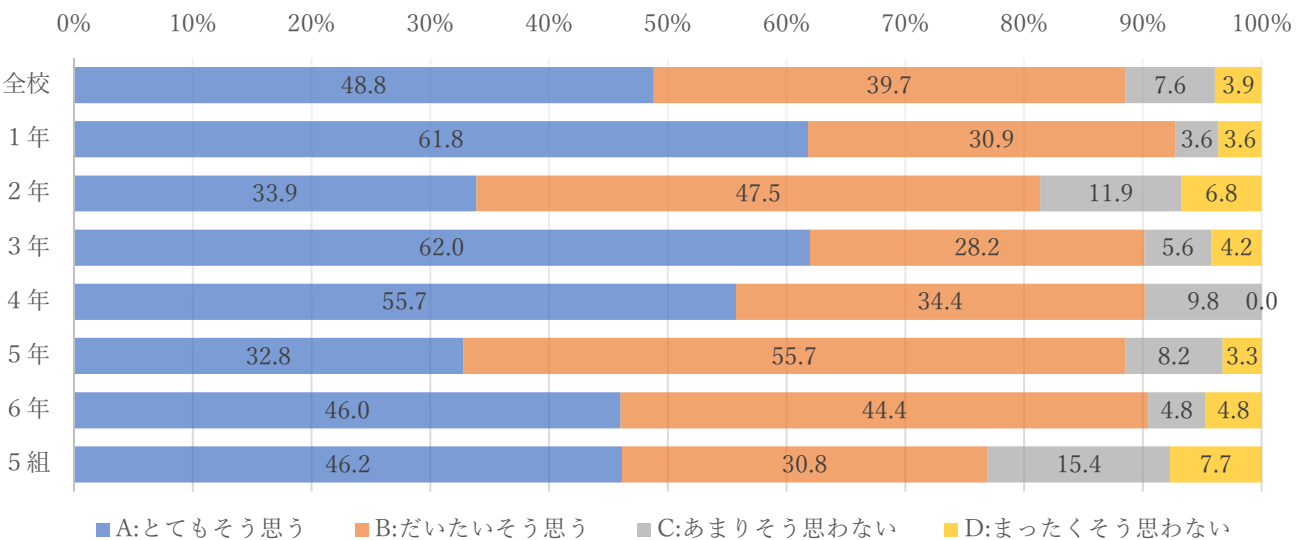
昨年度は多くの学年で肯定的回答が90%前後の結果だったが、今回は学年にもよるが、否定的回答が10~50%と非常に児童自身の評価が低い結果となっている。タブレットを活用する機会が増え、それに伴い出来ることと出来ないことがより顕著になってきたことも要因の1つとして考えられる。また、少しずつ活用におけるルールも整備され、昨年度のように自由に使えない場面も出てきたこと等も低下の一因かもしれない。今後、タブレットを活用する場面はより一層増えていくことになるため、児童の活用における技能面のフォローも確実にやっていく必要がある。

14 自分の意見や考え等をクラスや学年、学校に発信することができるようになってきた。



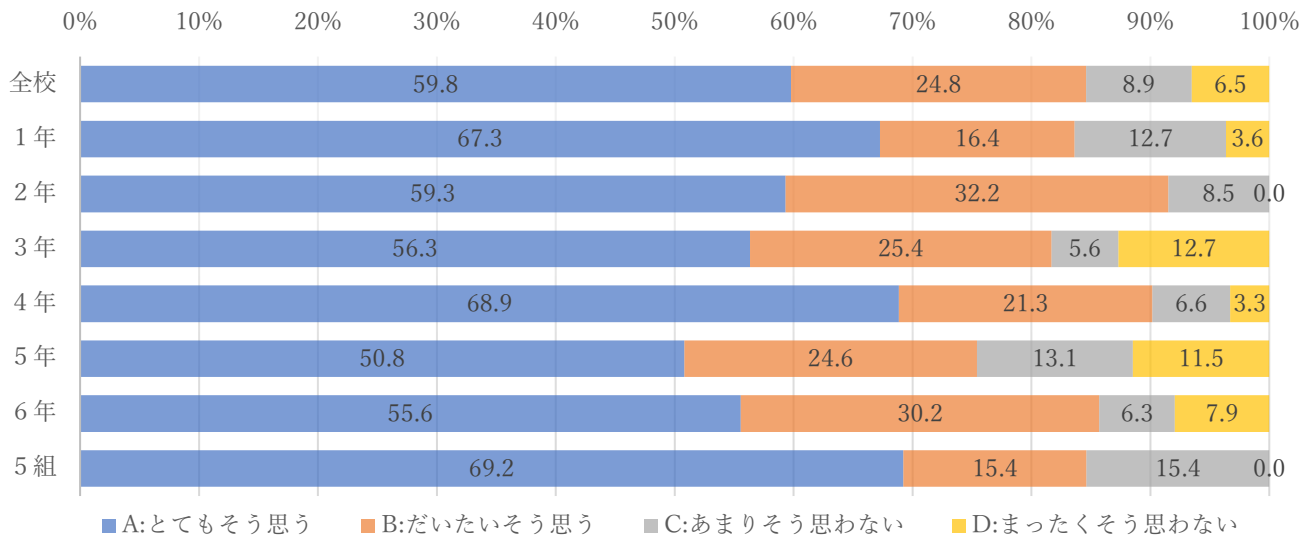
概ねどの学年においても、肯定的回答が80%近くになっている。ただ、否定的回答も一定数以上いることから、学年や個の成長や実態に合わせた情報発信の方法等を、教職員側も工夫して指導していかなければならないと考える。

15 先生は、あなたの質問や悩みごと、自分の話をよく聞いてくれる。



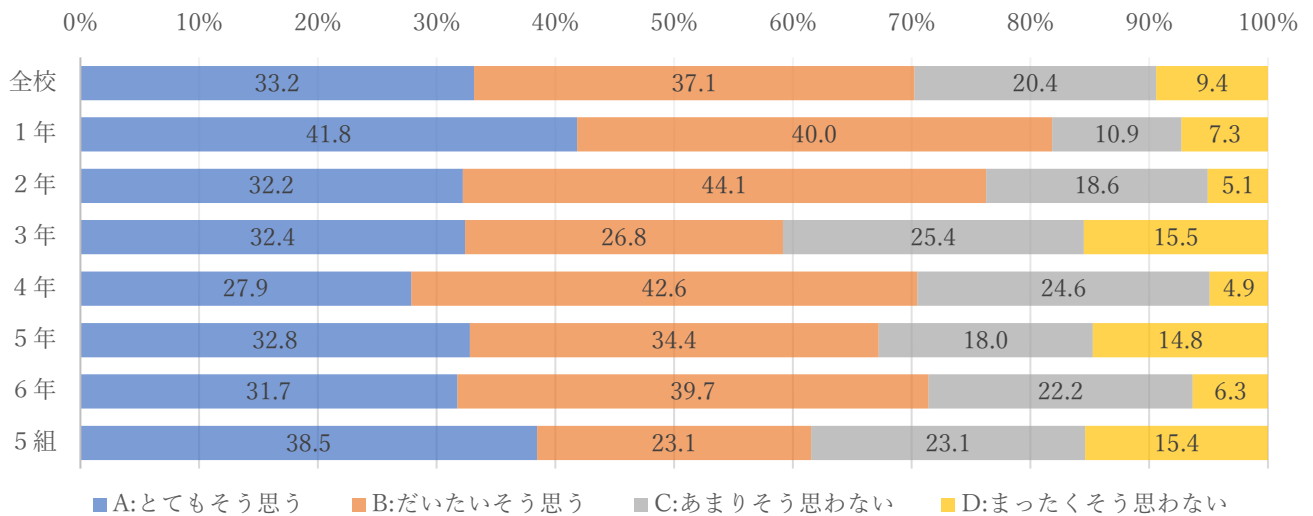
どの学年も肯定的回答が80%以上はあることから、多くの児童は教職員の対応に満足しているといえる。しかし、各学年10~20%近くの児童は、教職員の対応に満足していない結果も出ている。様々な児童がいることから、児童1人ひとりの特性を考慮して、より相談しやすい環境作りを行っていかなければならない。また、日々の学級経営や授業等で、児童との信頼関係の構築が必要不可欠である。

16 将来の夢がある。



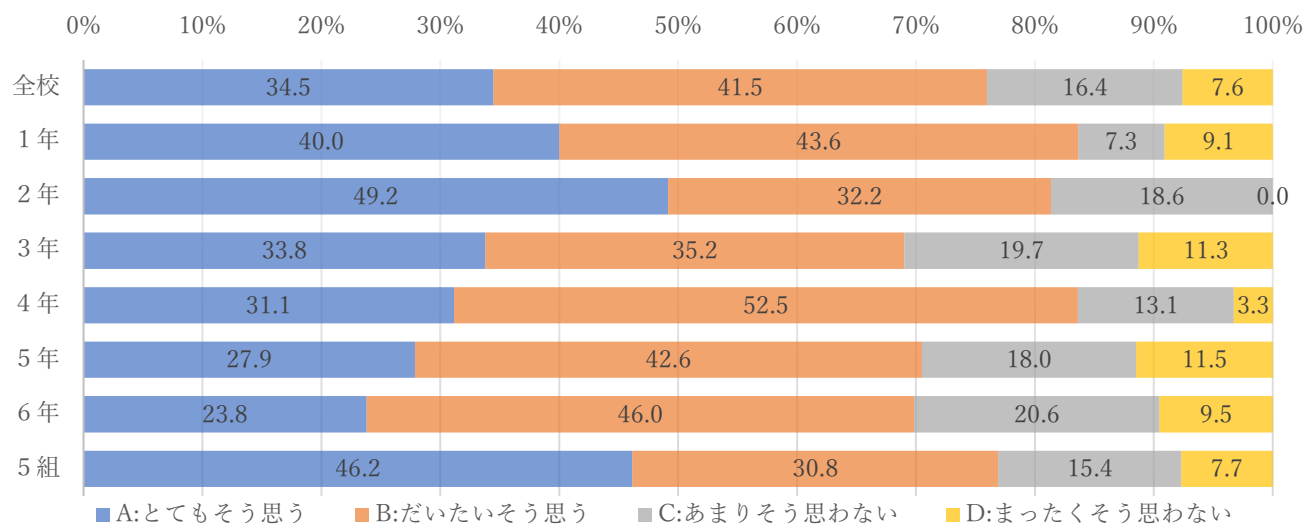
大半の児童は肯定的回答をしている。その一方で各学年10～20%近くの児童が将来の夢について否定的回答をしている事実がある。学校生活の中で将来の夢につながるような取組やキャリア教育のより一層の推進が必要である。

17 世界や外国について興味がでてきた。



6割以上の児童は肯定的回答をしているが、20～40%近くの児童は否定的回答となっている。昨年度と比較しても、否定的回答の割合は増えている状況である。どんな取組をすることで、児童が世界や外国についての興味・関心が高まるのかを検討しながら活動を企画・実施していかなければならない。

18 地域の人と関わりながら生活している。



昨年度に引き続き、否定的回答が多い結果となった。ここ数年、コロナ禍のため様々な地域行事が中止になってきていることも原因の1つとして挙げられる。今後、新型コロナウイルス感染症に関する規制緩和等がより進んだ折には、CSやSSNであることを生かした活動を行い、「地域の中の一員」であることを児童にも自覚してもらえるようにしていく必要はあると考える。